

ぬ

舌音にして單子音の一つ。

ぬまに同じ。○「隱沼」「隱沼」「浮沼」

たま。○「瓊矛」「瓊音」

の古言。○「野守」「野火」「吉野」

眠る。●れいる。

もとは往ぬの意。○牛過去をあらはす詞。

た。○「春立ちぬ」「夜更けぬれば」

打消の詞。すの變化。○「隔てぬ友」

「一」縫ふ事。「二」縫方。「三」ぬいもの刺

縫の略。

縫殿寮の略。中古役所の名。

裁縫。

針の中にて最

も小さきもの。

縫に金糸銀糸の糸まざりたるもの

糸にて種々の畫の形を縫ひ附くる

事。もしくは其縫ひ附けたる紙。

縫殿寮(名) 縫殿寮に同じ。

縫殿寮(名) 禁中の衣服裁縫の事を掌る

昔の役所の名。中務省の所屬にして頭助、
元、属の官吏あり。

縫目(名) 物の縫ひ合せ口。

縫師(名) ぬいものをする人。

縫紋(名) 糸にて縫ひ附けたる紋。○「縫紋の

羽織」「鷹の羽の縫紋」

縫物(名) 「一」縫ふべき衣類。もしくは縫ひ

たる衣類。○二種々の美しき糸にて模様を

刺し縫ふ事。……おもに繡の字を書き。又

刺繡とも云ふ。

射干玉。野干。夜干(名) 槍扇一名烏扇と云ふ

草の實。○其草のさま烏の羽に似たるを以

て此葉を野羽と名づけ。其實玉に似たるを

以て野羽玉と名づけしなるべし。

奴袴(名) 袴の名。指貫に同じ。

(名) 時鳥の異名。

(枕) 其實黒きものなれば黒髪夜今宵夕

等黒き色に縁ある詞に掛けて云ひ。又夜に

縁ある夢月に掛けても云ふ枕詞。○萬葉

「ぬば玉の黒髪山」同「ぬば玉の髪は亂れて」

同「ぬば玉の夜わたる月」同「ぬば玉の今宵

の雪に同「ぬは玉の夕になれば同」ぬは玉の夢に見えつゝ同「ぬは玉の月に向ひて」

ぬほく

奴僕(名)

下男。●下部。|| ぬほくに同じ。

ぬほこ

瓊矛(名)

玉の飾を附けたる矛。●玉鏢。(記、

紀)

ぬり

塗(名)

塗る事。

ぬりいた

塗板(名)

字を書くため漆にて塗りたる札。

ぬりばん

塗板(名)

學校にて教師の問題など示すために設けたる黒塗の板。●こくばん。●ぼう

るご。

ぬりばし

塗箸(名)

漆にて塗りたる箸。

ぬりがさ

塗箒(名)

黒漆にて塗りたる箒。

ぬりだい

塗大工(名)

壁を塗る大工。●左官。

ぬりづる

塗弦(名)

漆にて塗りたる弓弦。

ぬりつく

塗附(他動下二段)

(一)塗りて附くる。(二)塗り附くるやうに我事な他人にかぶせる。

ぬりの

塗篋(名)

漆にて塗りたる矢竹。○「塗篋の矢」

ぬりぐすり

塗藥(名)

皮膚に塗り用ふる藥。

ぬりや

塗屋(名)

土にて塗りたる家。●土藏造り。

ぬりこむ

塗籠(他動下二段)

物を中に入れて外から塗り附くる。

ぬりこめ

塗籠(名)

(一)中古家の内に土藏造りのやうに外から塗り籠めて作れる一室にて主人夫婦の寢室など設くるための處。多くは寢殿の西の庇にあり。(二)後世は土藏を云ふ。

ぬりこめどう

塗籠簾(名)

簾を繁く卷きたる上を漆にて全體塗り籠めたる弓。

ぬりで

鐸(名)

大鈴。……鐸鈴の類。……はきれいの

ぬりゆみ

塗弓(名)

漆にて塗りたる弓。

ぬりし

塗師(名)

ぬしに同じ。

ぬりじた

塗下(名)

塗物の下地。

ぬりもの

塗物(名)

漆にて塗りたる器物。

ぬりものし

塗物師(名)

塗師に同じ。

ぬる

満(自動下二段)

(一)水に若く。●うるほふ。(二)男女の色事するを云ふ。○「ぬれて逢ふ夜」

ぬる

(自動下二段)

油つきたる髪をぬる／＼と延び垂るるを云ふ。○萬葉「たけばぬれたかねば

ぬる

塗(他動四段)

(一)物の面に擦り附けかぶせる。

ぬる

(二)物を塗るやうに我事を他人にかぶせ

ぬる

(二)物を塗るやうに我事を他人にかぶせ

る。

ぬる

(動勅)

ぬの變化にて半過去をあらはす詞。○「戀ぞつもりて淵となりぬる」

ぬるりど

(副)

ぬる／＼に同じ。

ぬるぬる

(副)

なめらかなる有様。●ぬら／＼。●ぬめ／＼。●つる／＼。(又)ぬる／＼と。

ぬるぬる

(副)

濡れ／＼。●濡れつゝ。

ぬるぬる

(副)

寝る／＼。●寝つゝ。

ぬるたま

(名)

寝る魂の意。○夢。○伊勢集「八重とづる道は草にもまごふらしぬるたまにだに逢ふと見ねば」

ぬるむ

(自動四段)

「(一)あたゝかくある。●やゝ温かになる。●微温の度を保つ。……寒暖風、水なごに云ふ。(二)身に熱を持つ。○源氏

「御身もぬるみて御心地もいさあしけれ」

ぬるまゆ

(名)

ぬるき湯。●微温湯。

ぬるで

白膠木(名)

木の名。葉の形漆に似て夏一尺ばかりの穂に小さき花さき。實は蔦色にて五倍子に取られ。秋美しく紅葉するもの。

ぬるさ

(名)

ぬるき加減。

ぬるみ

(名)

ぬるむ事。●ぬるき加減。

ぬるし

(形。形状言ク活)

「(一)ぬるみたる有様。●あたかし。●やゝ温かし。●ぬくさい。○枕「晝になつてぬるくゆるびもてゆけば」(二)心の鈍きを云ふ。●のろい。

ぬか

糠(名)

米を搗きたる時に出来る糠の粉。

ぬか

頰(名)

「(一)びたひ。○「頰を突く」(二)ぬかづきの略。●拜禮。○枕「曉のぬか」夫木ぬかの聲」

ぬかば

向齒(名)

向ふ齒の轉略。●前齒。(和名抄)

ぬかばへ

糠蠅(名)

虫の名。うんか。

ぬかぼし

糠星(名)

空に多く見ゆる星の總稱。

ぬかどり

額鳥(名)

鳥の名。鷗に似て小さく青みを帯びたる鳥。

ぬかり

抜り(名)

不注意。●ぶれん。●油斷。

ぬかり

(名)

地上が雨などのため泥深く爲りたる事。○爲家歌集「畔おさす苗代水のほぞ見ね」道のぬかりのかわくまぞなき」

ぬかる

抜(自動四段)

うっかりする。●油斷する。

ぬかる

(自動四段)

地上が雨などのため泥勝になる。

ぬかるみ

(名)

ぬかりに同じ。雨などにて泥勝になりたる事。

ぬかが

糠蚊(名) 蚊の種類。○糠の粉を散らせるに似

たる故の名。●異名は……ぬかこ。●まく

なき。

ぬかがみ

額髪(名) 前髪。●ひたひたみ。

ぬかつく

額突(自動四段) 額を突く。●禮拜する。●

おじぎする。○庵主「ぬかつき陀羅尼よむ」

ぬかつけ

糠漬(名) 糠に漬けたる瓜、茄、大根の類。●

ぬかみそ。

ぬかつぎ

額突(名) ぬかつく事。●拜禮。●おじぎ。

ぬかつぎ

醋醬(名) 草の名。ほいつきの古稱。

ぬかつぎじし

叩頭虫(名) 米搗虫に同じ。○其様のお

じぎしあるくに似たる故の名。

ぬかぶくろ

糠袋(名) 糠を入れたる袋。皮膚の垢を拭

ふための料。

ぬかご

糠子(名) ぬかごに同じ。

ぬかこ

零餘子(名) 山の芋の實。●むかごに同じ。

ぬかみそ

糠味噌(名) 糠漬に同じ。

ぬかす

抜(他動四段) 「二」抜けしむる。●抜くるやう

にする。「二」言ふを口きたなく云ふ詞。○

「馬鹿ぬかすな」

ぬた

沼田(名) ぬまたの略。○散木「なぐるさき沼田

ぬた

(名)

「二」猪などの轉けまはり寝る事。●ぬたく

臥し。「二」猪の寢床。○散木「編みける

ぬた

(名)

酢味噌にてあへたる魚または野菜。○「鰯の

ぬたばす

(名) 鹿の角にて作りたる矢筈。

ぬたうづ

(自動四段) 猪などの轉けまはり寝るを云ふ。

●もぐく。○夫木「戀をして臥す猪の床は

まごろまでぬた打ちさます夜半の寢覺よ」

ぬたぐる

(自動四段) 蛇、鰻または牛、馬、猪などの類

の身をもがき又ばうねらす。

ぬれ

濡(名)

濡るゝ事。○源氏「道の露けさもいさ處

せし。云々。女君のさゝるぬれをあやしきこ

ぬれ

(助動)

ぬの變化にて半過去をあらはす詞。○「瀧

の音は絶えて久しくなりぬれぞ」

ぬれいろ

濡色(名)

物の濡れて見ゆる色。●しめり

ぬればむ

(自動四段) 濡れて見ゆる。●しめつばくあ

ぬれにしき

る。

濡銘(名)

濡れたる銘。○夫木「紅葉する

秋の山邊のぬれにしきはせさや雨のおし晴れぬらん」

ぬれぼけ

濡佛(名)

雨さらしの佛像。

ぬれぬれ

濡々(副)

濡ながら。

ぬれがみ

濡髪(名)

洗ひたての髪。

ぬれがみ

濡紙(名)

水に濡れたる紙。

ぬれのみち

濡の道(名)

戀の道。●色の道。

ぬれまく

濡幕(名)

男女の色事を種としたる芝居の一幕。

ぬれけ

濡毛(名)

濡毛に同じ。

ぬれごろも

濡衣(名)

ぬれさぬ。「一」「二」に同じ。

ぬれごと

濡事(名)

芝居に演ずる男女の色事。

ぬれえん

濡椽(名)

雨にぬるゝの意。◎月より外にある椽。

ぬれて

濡手(名)

水などに濡れたる手。

ぬれあふき

濡扇(名)

俗曲の一種。

ぬれさき

濡鷺(名)

草の名。菊のこと。

ぬれきぬ

濡衣(名)

「一」水などに濡れたる衣類。「二」

冤罪。●無實の罪。●無き名を受くる事。

ぬれみ

濡身(名)

濡れたるからだ。

ぬれしば

濡柴(名)

濡れたる柴。○夫木「時雨する山

のぬれしばこりにさやまだ夜をこめて賤がむれたつ」

ぬれもの

濡物(名)

「一」濡れたる物。「二」濡れてはな

らぬもの。○ぬれもの用心」

ぬべい

(名)

汁の種類。のべいに同じ。

ぬつと

(副)

藪から棒に物を突き出すやうの有様。●に

よさ。●によいさ。

ぬつとり

野つ鳥枕

野の鳥の意。◎雄は野に住む鳥

ぬなど

(名)

瓊の音の轉。●玉の觸れ合ふ音。(記)

ぬなば

葦(名)

沼繩すなばち沼に生ねたる繩の意。◎

水草の意。葦菜。

ぬなばくり

(名)

水草の名。ぬなばに同じ。(古)

ぬらぬら

なめらかなる有様。●ぬる／＼。●ぬめぬ

め。(又)ぬら／＼。

ぬらくら

(副)

鰻なごをつかまへる有様。「一」ぬらぬ

ら。●つるつる。「二」締りく／＼りのなき有

様(又)ぬらくら。

押し出さない。省りない。

捕へつゝみて兩足を暖むる事あり。此捕ら

鳥をば再び捕り食ふ事なしとぞ。○後京極

鷹三百首「鷹の取る拳の内のぬくぬき」永

る爪根の情をぞ知る」

(名) あたいかみ。

(形。形状言ク活) あたいかし。ぬるし。

(自動四段)

沼(名) 泥がちなる水の場所。

沼川(名) 沼の知き川。●泥まじりの川。○

いほぬし「洲^{すゐ}苔さる沼川水におりたちて取るにも先ず袖はぬれける」

沼風(名) 沼を吹く風。○夫木「花がつみか

つ亂れゆく沼風に露や浅香の名にほふらん」

沼田(名) 泥がちなる田。

沼江(名) 沼の知き江。●泥まじりの江。○散

木「五月雨はもりこし水も岩越ねて庭も沼江の底さなりけり」

江の底さなりけり」

拔齒(名) 抜け落ちたる齒。

拔荷(名) 國禁を侵して密に外國などへ送る商

品の荷物。

(副) 忍びく。●かくれく。●内々。(又)

ぬけぬけに。

(副) 氣の抜けたる有様。●馬鹿らしく。

○盛衰「ぬけくさ判官に相つゞきて行く」

脱殻(名) 蟬蛇などの脱ぎ捨てたる殻。●も

ぬけのから。

脱駟(名) 人に抜け隠れてする先驅。

拔首(名) 轆轤首に同じ。

拔參(名) 家を抜け出して伊勢參宮する事

……參宮に限りては家の父兄主人などが拔參を默許するの風俗あり。

拔穴(名) 向へ抜け通りたる穴。●通り抜け

らるゝ穴。

拔作(名) 智の抜けたる人を嘲りて云ふ詞。

●馬鹿作。●あほうもの。

拔目(名) 「一」物の抜け落ちたる間。○夫木「山

腰の軒端は萱の抜目よりわりなくもるゝ春の雨かな」(二)ぬかり。●手おち。

拔道(名) 「一」隠れて抜け行く道。「二」抜け

出る方法。

拔字(名) 書落したる字。●脱字。

鵠(名) 「一」鳥の名。鵠に似て深山に住む鳥。

ねえごり
ねえごりの

鵲鳥(名)

ねねの「一」に同じ。

(枕)

鵲の鳴く聲は恨み歎くに似たる故

◎うらなげたこひのごよひ等の詞にか
かる枕詞。○萬葉「ねね鳥の哀嘆居るさ告
げむ子もがも同」ねねさりの片戀妻同「ね
ね鳥のごよひ居るに」

ねえさ

(名)

なね草の轉。◎なね／＼として和ら
かに生ひたる若草。

ねえさの

(枕)

和かに靡くさまを妻の形容にしたる
枕詞。○見「ねねさの妻にしあれば」

ねえふす

(自動四段)

なねふすの轉。◎なね／＼とし
て伏す。

ねえごり

鵲子鳥(名)

ねねごりに同じ。

ねえごり

(枕)

ねねごりに同じくうらなげにか
る枕詞。○萬葉「ねねごりうらなげなれ
ば」

ねて
ねで
ねさ

(名)

木の名。ねるでに同じ。

鐸(名)

ねりでの略。◎大鐸。(古)

(名)

木の名。ねるでの略。

幣。麻(名)

「一」神に奉る麻。木綿また紙の切りた
るもの。◎幣。◎和幣。◎して。「二」祓の時
身の穢を祓ひ清めて海川へ流し捨つる麻。

●大ねさ。●木綿。●和幣。◎にきて
中安全を祈るため道々の神に奉る麻の小さ
く切りたるもの。……赤黄などの色を用ひ
神前に撒き散らして奉る様の似たるにより
紅葉を常に幣に見立てて云へり。○古今「神
なびの山を過ぎゆく秋なれば龍田川にぞ幣
は手向くる」(四)旅行に入用の品なれば之
を錢別として旅立つ人に贈る事あるより錢
別品の意にも用ふ。○増鏡「東に歸り下る
頃。上下色々のねさ多かりし中に」

ねさぶくろ

幣袋(名)

旅人のねさをに入れて携ふる袋。

貫(名)

組貫に同じ。上古の鎧の綴糸。

貫木(名)

家材の名。◎横に柱と打違ひたる木。

緯(名)

貫き通すの意。◎「一」織物の横糸。「二」

ぬき

ぬき

拔(名)

縦横十文字に打違ひたるもの、横縷。

「一」抜く事。「二」武士の佩きたる刀を抜き去る略。

ぬきいど

拔糸(名)

古着より抜き取りたる糸。

ぬきいれ

緯糸(名)

織物の横糸。

ぬきいれそで

拔入袖(名)

ぬきいれでに同じ。

ぬきいれで

拔入手(名)

懷手。○宗五大草紙「御前に祇侯の時ぬきいれですべからず」

拔穂(名)

抜き取りたる稻の穂。

ぬきほ

拔綿(名)

古着より抜き出したる綿。

ぬきわた

貫河(名)

催馬樂の曲名。

ぬきがは

脱更(他動下二段)

舊を脱ぎて新に着更ふる。○後拾「櫻色に染めしころもをぬきかへて」

脱懸(他動下二段) 「一」衣類を脱ぎて物に懸くる。○古今「主知らぬ香こそはへれ秋の野に誰かぬきかけし麻袴ぞも」

ぬきかく

脱懸(他動下二段)

「二」装束を脱ぎて人の肩に打ち懸けやがて贈物とする。○源氏「御衣この人にぬきかけ給ひ」

羅車(名) 糸車。

ぬきかぶり

拔書(名)

處々書き抜く事。○拔萃。

ぬきがき

ぬきたる

脱垂(他動下二段)

肩ぬきて片袖を垂らす。

「舞樂を舞ふ時。曲に依りては袍の右の肩を脱ぐ事あり。之を云ふ。○枕「竹のうしろから舞ひ出でぬきたれつるさまぞも」

ぬきれ

(名)

貫き入れの略。玉を貫きて緒に入るの意。○數珠。

ぬきつ

(他動下二段)

脱ぎ捨つの略。○萬葉「穿沓をぬきつる如く」

ぬきつる

拔連(他動下二段)

語共に刀を抜きて相伴ふ。○「玉散る及ぬきつれて」

ぬきんづ

抽(自動下二段)

抜け出つの轉。○もぬける。

ぬきんづ

撞(他動下二段)

抜き出たす。○拔撞する。

ぬきうち

拔壁(名)

刀を抜くや否や人に切り付くる事。

ぬきえもん

拔衣紋(名)

首の抜け出るやうに衣紋をすらして着る事。

ぬきで

拔手(名)

相撲の手の名。

ぬきでわた

拔出綿(名)

抜き出したる綿。ぬきわたに同じ。

ぬきあし

拔足(名)

足音を立てさせじさて足を抜くやうに上げて歩く事。○正統記「天に脊ぐり」

まり地に拔足し」

ぬきさし

拔差(名) 除きたり加へたりする事。

ぬきみ

拔身(名) 鞘より抜き出したる刃。●拔刀。●

白刃。

ぬきしろ

緯白(名) 縦は色糸、緯は白糸にて織りたる織物。

ぬきす

貫簀(名) 水外に散らさぬため手水盥の上に懸け置く簀。(雅)

ぬきすべす

(他動四段) 「一」そつと滑らかすやうに脱ぐ。○源氏「ちのぬきすべしたる薄衣」(「二」)しだらもなく滑らかし脱ぐ。○源氏「唐衣はぬきすべしおしやりて」

ぬきすつ

脱捨(他動下二段) 脱ぎ捨て捨つる。○夫木「皆人は蟬の羽衣ぬきすて」

ぬきすて

脱捨(名) 「一」脱ぎ捨てる事。「二」脱ぎ捨てたる物。

ぬめ

(名) ぬのめの略。○ぬめのある短冊」

ぬめ

なめらかなる意。◎「一」絹の一種。殊に面なめらかにて光澤あり書畫など書くに多く用ふるもの。「二」古銭の背面の文字なきところ。

ぬめり

(名) 「一」なめらかなる事。「二」ぬめくしたる液。

ぬめぬめ

(副) なめらかなる有様。●ぬるく。●ぬらく。(又)「ぬめく」して。

ぬめる

(自動四段) ぬめくする。●つるくする。●すべる。

ぬめらか

滑 なめらかに同じ。(形)「ぬめらかなる。(副)ぬめらかに。

ぬみぐすり

(名) 「一」芍薬。「二」枸杞。塗師(名) ぬりしの略。◎漆細工をする人。●塗師。

ぬし

主(名) 之大人の約。◎「一」所有主。●主客。「二」家の主人。●あるじ。●亭主。●夫。「三」主君。「四」たゞ尊稱。……「何がしの主」

「父めし」の類。「五」田野池淵等に年久しく住みて靈を現はす蛇などの類。

ぬし

主(代) ●おん身。●あなた。●おまへさん。●貴君。○宇治「わがきぬしたちばげに怪しと思ふらん」

ぬじ

虹(寛)(名) 雨さ日光と相映じて空に現はるゝもの。一に同じ。(萬葉東歌)

ぬしや

塗師屋(名) 塗師ぬしまた塗師の家。

ぬひ

奴婢(名) 下男と下女と。●婢僕。

ぬび

野火(名) 野を焼く火。(萬葉)

ぬび

(名) 野邊のべに同じ。(古)

ぬびる

野蒜(名) 野に生ひたる蒜。(古)

ぬすだつ

(自動四段) ぬすみたつの略。◎狩場にて鷹に恐れて草陰に隠れ居たる小鳥が時過ぎて身を盗むやうにこそくさ立ち去るを云ふ

○定家卿鷹三百首「落草をぬすだつ鳥ものびやらじおしつけてゆく鷹の追羽に」

ぬすむ

盗。竊。偷(他動四段) 「一」ひそかに人の物を取る。(二)人に隠れて許されぬ事をする。(三)物を盗むやうに僅のびまにて事をする。

ぬすまる

(自動下二段) 「一」我物を人に盗み去らる。(二)人に盗み出さるゝ如く隠れ忍びて出て行くを云ふ。又閑をぬすみて事をするを云ふ。○榮花「夜中ばかりにいみじう寝入りたれば。云々。御供に人二三人してぬすまれ出でさせ給ふ」

ぬすまはる

(自動下二段) ぬすまるに同じ。○空種「夜ふけぬればからうじてぬすまはれて衛府の

ぬすま

所におはして」(他動四段) 「一」ぬすむに同じ。(二)いつ

はる。○萬葉「年の八年を我ぬすまひし」同「いはぬないひきと我ぬすまはむ」

ぬすみ

盗(名) 盗む事。●竊盜。

ぬすみに

(副) ぬすむやうに。●ひそかに。○散木「初霜のおきのこしたる白菊を露やぬすみにうつろはすらん」

ぬすみぐひ

盜食(名) 物を盗みて食ふ事。●人に隠して食ふ事。

ぬすみもの

盜物(名) 竊盜品。

ぬすびと

盜人(名) 「一」盗をする人。●盜賊。(二)人を卑しめ罵りて云ふ。○竹取「がぐや姫てふ盜人のやつが」(三)人を寝むる餘りに却りて反對の詞にて云ふ。○枕「いみじき盜人かな。得こそ捨つまじけれ」

ぬすびとのあし

盜人足(名) 草の名。のつち。

